

コンブ苗まき増殖試験

沢田 満・鹿内 満春・三木 文興

はじめに

天然漁場へのコンブの定着を目的としたコンブ苗まき試験を昨年度に引続き実施した。今年度は昨年度までのようにコンブ種苗を基質に結着する方法を改め、天然採苗により直接基質にコンブ幼体を着生させたものを海底に播いた。

試験場所

今別町地先および佐井村地先

試験期間

昭和48年11月～49年7月

試験方法

天然採苗および養成は昭和48年11月から49年3月までの間、今別町および佐井村地先の延縄式施設の中層(水深5m)で行なったが、基質にはコンクリート・ブロック(15cm×10cm×7cm、2.6kg)を使用した。

そして、昭和49年3月に、これら幼コンブの着生したブロックを今別地先(90個、面積3m×3m)および佐井村地先(150個、面積約5m×5m)の海底に播き、その後の状況を追跡した。なお、水深は今別町地先では14m、佐井村地先では10mであった。

追跡調査は、スキューバ潜水により基質を採集しコンブの生育状況を調査した。

試験結果

a) 今別町地先

コンクリート・ブロックに着生していたコンブの状況および苗まき場所の採り結果を第1表に示した。苗まき地点および周辺に生息するウニを除去し苗まきを行なった。

4月の調査ではブロックに着生するコンブはかなり減少したが、残ったコ

第1表 今別町地先における苗まきブロックのコンブおよび苗まき場所の採り調査結果

調査月日	ブロックに着生するコンブの状況			苗まき場所の採り結果 (1m ² 採×2)
	No	着生 個体数	平均葉長	
49年 3月27日	1	267本	50cm	
	2	294	(~10~100)	
4月23日	1	43	50	キタムラサキウニ 34個
	2	7	(~10~80)	
5月29日	1	⁴ ※6	~1~	キタムラサキウニ 7個
	2	³ ※4		
	3	³ ※2		
	4	³ ※13		

註 ※…根茎部のみを残す個体数

()内の数値は範囲を示す。

コンブは順調に生長しているのが観察された。しかし一部のコンブにウニの食害と思われる痕跡が見られた。また苗まき地点周辺にはウニが多く見られ、観察後に採集、除去を行なった。

5月の調査では、コンブは大部分食害をうけており、1cm前後の根茎部のみを残す個体がほとんどであった。

b) 佐井村地先

コンクリート・ブロックに着生するコンブの状況および苗まき場所の枠取り結果を第2表に示した。

4月の調査では苗まきブロックの垂直面のコンブはほとんどなくなり個体数は減少したが、残ったコンブは順調に生長しているのが観察された。

6月の調査では、ブロックに着生しているコンブの大部分にウニの食害が見られ一部のブロックは根茎部のみを残すものもあった。さらに7月の調査では6月の調査時に残ったコンブは全く見られず、一部のブロックにコンブの根茎部のみを残すものが見られた。

考 察

両地先とも苗まき後3カ月経過すると、苗まきブロックに着生したコンブはウニによる食害をうけてなくなっていた。今後ウニの食害を防ぐために、苗まき実施以前に苗まき場所周辺の広範囲なウニを除去することや、苗まき場所として、ウニの少ない雑藻(ホンダワラ・アカハタ等)繁茂地帯を検討する必要がある。またコンクリートブロックの垂直面に着生した幼コンブは、苗まき1カ月後ほとんど流失してしまうことから、基質の形状を改良した方がよいと思われる。

第2表 佐井村地先における苗まきブロックのコンブ
および苗まき場所の枠取り調査結果

調査月日	ブロックに着生する コンブの状況			苗まき場所の枠取り結果 (1m ² 枠×2)
	No.	着生 個体数	平均葉長	
49年 3月19日	1	149本	9cm (~3~22)	エゾアワビ 2個 150♀
	2	192		キタムラサキウニ 3個 280♀ イトマキヒトデ 3個 72♀ ヌメハノリ 76♀
4月28日	1	92	10 (~3~90)	
	2	71		
	3	131		
6月5日	(5 個の 合計)	51	6 (~18)	

註 ()内の数値は範囲を示す。